

《 第43回高高神田会のご案内 》

— 新年(旧暦1月7日)に新たな装いで「白味噌餡餅雑煮」を楽しみましょう—

神田会の新年のイベント「餡餅雑煮の会」の第一回目は2002年2月16日に始まりました。

ということは2002年(平成14年)からかれこれ11回開催したことになります。神田会の皆様が慣れ親しんでこられたイベントです。

そのイベントが(怖れていたことですが)開催の危機に瀕することになってしまいました。昨年(2012年)10月に寂しくも困ったことに、過去11回もお世話になった渋谷の「讃岐うどん高松」さんがなんと閉店されてしまったのです。

思い起こせばちょうど12年前に、「白みそあん餅雑煮」がなかなか食べられない会員のために開催したのがこの会でした。その様な趣旨を記したそのときの古文書(案内文)の一節を下記にご紹介します。

【高高神田会は、このような郷土の雑煮で正月が祝えないという強度に恵まれない人を助けるために、NPO「白味噌・あんころ丸餅雑煮会」をスタートさせ、その活動として上記の会を開催するものであります。】

なんと当会はNPOでございました。(小生不明にして知らず。)

「讃岐うどん高松」さんは休日にわざわざ店を開けて臨時の店員さんを雇い、三木町の佐治珠ちゃんのご実家に無理を言って餅と野菜をご提供いただき、高嶋監督には映像を録ってもらったり、長谷川先輩には奥様まで動員されて写真を撮ってもらうだけでなくそれをアルバム風の「寄合い記」にしてもらったり、それを土居先輩がHPにアップしてくれたり、白川真理さんは無料でフルートを演奏し、故久保(弟)先輩もご自分のご趣味とはいえ美声を披露して貰い、そのお兄さんにはいろいろな怪しげなお話で場を盛り上げていただき、丸吉先輩には高高野球部の報告をかいつまんでご披露いただいたり、小山さんには出席者名簿を作成いただいたり、長尾さんには財務省を自主的に勤めていただいたり、土田さんには後片付け担当全権大使をお引き受けいただいたり、なんととっても岡崎先輩には毎年委員長(このNPOはいつからか実行委員会という呼称になってます。)として引っ張っていただいたり、その他多くの方のボランティア的ご協力でまさにNPOとして「馥郁たる讃岐食文化としての白みそあん餅雑煮を世に伝える」ことを具現していたわけでありました。

「讃岐うどん高松」さんは3年前にご主人がお亡くなりになり、藤村先輩が女手一つで頑張ってくれましたが、体調が思わしくなく、上記の通り残念ながらの店じまいとなったことで、当NPOの活動をどうしようかと思案しておりました。

もはや東京で讃岐食文化を継承することは困難かと思っておりましたところ、「せとうち旬彩館かおりひめ」の溝渕さん(高高OB)から「なんとかやってみようか?」という有難いお申し出を頂き、今回から装いも新たにNPO活動を続けてまいることになりました。

今年はどうな会になるか(するか)これから考えて参りますが、「三木町の餅と野菜じゃないと讃岐の食文化は伝わらん!」と財務大臣が譲りませんので、佐治さんと佐治さんご実家には大変ご面倒をおかけいたしますが、佐治さんちのお餅とお野菜は引き続きお世話になることとなりました。

また、「うどんダシのおでんがない讃岐の食文化やこしありえん!」と叫ぶ全権大使がおりますので、かおりひめの料理長大西さんに無理やり作ってもらうことになりました。

また、「まんば」の季節となりましたので、「まんばのけんちゃん」または「まんばのたいたん」もなんとか作ってくれそうな気配となりました。

何はともあれ今年も餡餅雑煮を食べることができるということで、今回があまりに寂しくなってせとうち旬彩館さんに愛想を付かされないよう皆様奮ってご参加下さい。

ということで下記のとおりご案内申し上げます。

開催日時 : **2月16日(土)** 旧暦1月7日、七草の日です。

12:30から 16:00終了

※ 「かおりひめ」さんにはランチタイムをパスしてもらいますので12:30スタート

※ そのかわりディナータイムまでパスして頂くわけにも参りませんので終了は16:00厳守

場所 : **せとうち旬彩館「かおりひめ」**

港区新橋2-19-10新橋マリビル2階 (JR新橋銀座口すぐ)

Tel 03-5537-2684

ところで、今年巳年。

「巳」はなんとなく蛇が頭をもたげているような形ですが(今年の年賀状にも巳を模したへびの図柄のものが多く見られました)、「巳」よりも「己」のほうがへびに似ていると思いませんか？

「巳」は訓読みでは「み」ですが音読みでは「し」、「巳」の意味は十二支の6番目、東南の方角、午前十時ごろという意味であって十二進法の6番目という意、つまり「巳」はへびのようにくねくねとした形ですが「へび」の意味はないようです。中国が干支の発祥で本家中国でも「巳」年を動物に当てると「へび」となるようなので、要は十二支の6番目「巳」=十二獣の6番目「へび」ということのようなのです。「子」や「辰」「申」「未」などは十二進法の意味だけではなくほかに漢字としての意味がありますが、「巳」には順番の意味しか漢和辞典には載っていません。因みに他の十二支の「丑、卯、午、酉、亥」も同様です。

「己」は訓読みでは「おのれ」、音読みでは「き」「こ」。(「み」という読み方は本来ありません。)この「己」は十干の6番目「つちのと」つまり「土の弟」という意味があります。「己巳」で「つちのとみ」、「己」と「巳」が重なったくねくねした干支です。(因みに今年「癸巳・みずのとみ」、十干十二支60のうちのちょうど30番目、前半最後の折り返しの年となります。)

「巳」と「己」は字面が良く似ていますので間違えて書かれることも多く、特に人名に多い。

「和己」さんはどういうわけか「かずみ」さん、「かずき」さんでなかつたりします。例えば光GENJIの諸星和己(もろぼしかずみ)さん。かとおもえば「かずき」さんがおられたり、「和巳」さん(本来はこれが正しいのですが)もちゃんとおられます。例えば元ダイエーホークス投手の斉藤和巳(さいとうかずみ)さん、本当にややこしい。

中央競馬の騎手「安藤勝己(あんどつかつみ)さん」、オートレーサーの「鈴木辰己(すずきたつみ)さん」、声優の「浅井清己(あさいきよみ)さん」、ダイフク機工の元社長、故「竹内克己(たけうちかつみ)さん」、もっと有名どころでは冒険家の「植村直己(うへむらなおみ)さん」などなど。

植村直己さんにはおもしろいエピソードがあります。

- 巳年生まれなので親は「直巳」と名づけた。 → 本来
 - ところが戸籍では役所が間違えて「直巳（巳は已然形の巳、3画目が中途半端に突き出しています。）」と書いてしまった。 → 戸籍上
 - 本人は「直己」が気に入って「直己」で通している。 → 本人が使う通称
- そういうことで国民栄誉賞の「植村なおみ」さんの「なおみ」は「直巳」「直巳」「直己」どれも間違いではないということに相成ります。「巳」「己」「巳」の権化のような人です。

「巳」もややこしいですね。

「巳」は訓読みでは「すでに」「もはや」「おわる」などなど、音読みでは「い」となります。

だいたい、活字のない時代においては「巳」も「己」も「巳」も区別が難しく、手書きにて行書や草書で書くと（人によってはちゃんと楷書で書いても）区別ができなくなりそうです。大手を振って混同されていたということかな？ このへんのことを調べると面白そうですが……

このややこしい3文字を使った四字熟語がある由。曰く「巳己巳己」。「いこみき」と読み、意味は「相互に似ている」「似て非なるもの」などに使うとのこと。全くその通りややこしいですが、この「巳己巳己」、今年巳年ですので知ったかぶって大いに使ってみませんか！

最後に問題。ネットで見たのですが、「己巳己巳巳」は何と読む？ トンチのような答えです。

それでは2月16日に新橋にてお会いしましょう。

NPO「高高神田会館ころ餅雑煮新年会」

……………出欠の返信用紙（2013. 2. 16 第43回神田会）……………

fax 送信 03-5296-7678 岡崎宛

参加

参加人数

欠席

卒業年

氏名